

宗教研究 第三七一号 目次

公開シンポジウム

宗教の創りだす絆——信仰による交わりの意義と可能性——	中道 基夫……………一
Indigenization, Inculturation から Interculturation > ……………	渡辺 順一……………二三
絆喪失時代における宗教運動の課題……………	三木 英……………四
宗教的ニューカマーと地域社会……………	小杉 泰……………七
現代宗教としてのイスラーム……………	……………七
デイスカッションの要約……………	……………七

研究報告

パネル

東日本大震災と宗教	……………
宗教の救援活動・応答……………	稲場 圭信……………一〇二
宗教者の活動とソーシャルメディア……………	榎本 香織……………一〇三
建学の精神と被災地支援……………	弓山 達也……………一〇三
神道系大学における	……………
ボランティアコーディネーターの葛藤……………	板井 正斉……………一〇五
パネルの主旨とまとめ……………	稲場 圭信……………一〇六

「社会貢献」の霊的次元

——日本仏教からの再考——

「社会貢献」と日本仏教……………	戸田 游晏……………一〇七
修二会における祈りと咒……………	平岡 昇修……………一〇九
死者と協同する仏教は可能か……………	坂井 祐円……………一一〇
仏教看護のめざすもの……………	藤腹 明子……………一二二
パネルの主旨とまとめ……………	戸田 游晏……………一二三
「日本宗教史」を大学でどのように教えるか	……………
「日本宗教史」の教え方……………	石上 和敬……………一二四
「日本宗教史」の教え方……………	小原 克博……………一二五

目次

「日本宗教史」の教え方	菊地 章太	二六
「日本宗教史」の教え方	鎌田 東二	二七
パネルの主旨とまとめ	星野 英紀	二八
宗教間対話の思想		
—— 理性は文化の多様性を超えるか ——		
アンセルムス	矢内 義顕	三〇
宗教間対話の思想としての		
トマス・アクィナスの信仰理解	芝元 航平	三三
トマス・アクィナスの自然法は		
どこまで普遍的か	川添 信介	三三
一四世紀ビザンツにおける		
理性と宗教問題	橋川 裕之	三三
パネルの主旨とまとめ	八巻 和彦	三五
瞑想的な世界認識と宗教研究		
MBSRにおける		
スピリチュアリティのあり方	井上ウイマラ	三六
F・バレーラが開いた		
瞑想と認知科学の出会い	村川 治彦	三七
井筒俊彦の瞑想体験と		
東西思想の比較研究	葛西 賢太	三八
玉城康四郎の仏教学と		
現代スピリチュアリティ研究	伊藤 雅之	三〇
パネルの主旨とまとめ	葛西 賢太	三三

近代国家におけるサンガ・僧侶		
なゼインド仏教は消滅したか	立川 武蔵	三三
ミャンマーにおける国家・サンガ関係	藏本 龍介	三三
カンボジアにおけるサンガの断絶と復古	小林 知	三五
東アジアの近代仏教	林 淳	三六
パネルの主旨とまとめ	林 淳	三七
アジア／戦争／新仏教		
近代日本仏教史研究における		
〈アジア〉と〈戦争〉	大谷 栄一	三九
東アジア世界に対する新仏教徒の視線	高橋 原	四〇
新仏教徒の戦争観	守屋 友江	四二
新仏教徒のラジオ出演	坂本 慎一	四三
パネルの主旨とまとめ	大谷 栄一	四四
日本宗教の環境倫理と社会活動		
シンプルライフ普及センターの		
仏教理念と市民的实践	小笠原宏樹	四四
現代日本の大学生のモノ供養観	隈元 正樹	四六
草の根エコ運動の現状と課題	深田伊佐夫	四六
炭素ゼロ運動にみる環境倫理	寺田 喜朗	四六
パネルの主旨とまとめ	寺田 喜朗	四六

目 次

新しい近代日本仏教研究へ

—— 自他認識・国民国家・社会参加 ——

近代移行期における真宗……………岩田 真美……………一五

監獄教誨の誕生……………繁田 真爾……………一五

明治中期における

日本仏教の言説的位相……………オリオン・クラウタウ……………一五

仏の語り方の近代……………碧海 寿広……………一五

パネルの主旨とまとめ……………オリオン・クラウタウ……………一五

死者供養をめぐる諸問題

—— 東アジアの視点から ——

人はなぜ石塔墓をたてるのか……………松尾 剛次……………一五

幽霊の誕生……………佐藤 弘夫……………一五

無遮と無主……………池上 良正……………一六

変貌する韓国の死者供養に対する

人々の意識と葛藤……………井上 治代……………一六

パネルの主旨とまとめ……………松尾 剛次……………一六

多様化する現代日本の

「移民と宗教」の理解に向けて

現代日本の滞日外国人の宗教状況と

その研究動向……………高橋 典史……………一六

ブラジル系教会の場合……………星野 壮……………一六

中華系キリスト教会の東アジア展開……………藤野 陽平……………一七

カトリック教会による

滞日外国人への支援……………白波瀬達也……………一六

パネルの主旨とまとめ……………高橋 典史……………一六

植民地朝鮮と宗教

—— 宗教概念論を超えて ——

植民地朝鮮における……………磯前 順一……………一七

宗教概念をめぐる言説編成……………磯前 順一……………一七

一九一〇年前後における「宗教」の行方……………金 泰勲……………一七

渡瀬常吉の朝鮮伝道における論理……………裴 貴得……………一七

崔南善と「朝鮮の固有信仰」……………沈 熙燦……………一七

パネルの主旨とまとめ……………磯前 順一……………一七

教団改革運動と女性

—— ジェンダー宗教学の視点から ——

開かれた伝統仏教教団と

ジェンダー宗教学の交差するところ……………川橋 範子……………一七

アメリカの浄土真宗における女性たち……………本多 彩……………一七

聖公会における司祭職の再検討……………香山 洋人……………一七

女性聖職者の按手をめぐる……………李 恩子……………一八

パネルの主旨とまとめ……………川橋範子・小松加代子……………一八

「伝統」と「近代」を超える女性の実践

—— ジェンダーの視座から ——

「良妻賢母」の登場……………井上まどか……………一八

目次

近代医療のなかで上座仏教をいきる	磯部 美里	一三八
現代医療の現場にみる伝統宗教	石井賀洋子	一四四
女性修験者とライフコース	小林奈央子	一六六
パネルの主旨とまとめ	小林奈央子	一七六

現代沖縄の社会、文化にみる

「本土化」と「沖縄化」の相互作用

沖縄的死者慣行にみる

「本土化」と「沖縄化」の相互作用	村上 興匡	一八六
聖地の観光資源化による沖縄表象の創出	塩月 亮子	一九〇
社会事業としての遺骨収集	佐藤 壮広	一九二
パネルの主旨とまとめ	村上 興匡	一九三

第一部会

「無縁社会」の宗教	宮本要太郎	一五五
アメリカ黒人のオリシャ崇拜運動にみる		
縁の形成とジェンダー	小池 郁子	一五五
東西霊性交流におけるヨーロッパ側の		
受け止め方	峯岸 正典	一六六
日本における宗教間対話の現状	武藤 亮飛	一七〇
異邦人入会の二類型	市川 裕	一七九
大災害と複数宗教性	濱田 陽	二〇〇
災害と救済論理	米井 輝圭	二〇二

カトリックの宗教儀礼のもつ社会的役割	岡光 信子	二〇三
ドイツにおける移民統合政策と		
イスラームの制度化	堀 彩子	二〇四
ラストファリアニズムとブラックムスリム		
におけるアフリカの記憶	上間 励起	二〇五
アンテペラム期アメリカの		

宗教とジャーナリズム

宗教とジャーナリズム	佐藤 清子	二〇六
現代日本社会における宗教と暴力	橋迫 瑞穂	二〇七
予言が当たったとき	堀江 宗正	二〇八
近代化・世俗化・宗教	中野 毅	二〇九
パールシー社会における		
ナオジヨテの意義	香月 法子	二一一

第二部会

国立大学神学部廃止とイタリア宗教史学	江川 純一	二二三
折口信夫と大川周明	安藤 礼二	二二三
「世界を宗教的に見る」という		
観念について	飯田 篤司	二二五
クリアーヌの思想における		
反ソヴィエト的「宗教」	奥山 史亮	二二六
宗教学と科学	佐々木 啓	二二七
日本神話研究史の諸問題	松村 一男	二二八
「否定」の宗教学	関 一敏	二三〇
宗教存続のメカニズム	小田 淑子	二三二
明治政府の宗教政策とキリシタン集落	内藤 幹生	二三三

目次

戦前の宗務行政……………	大澤 広嗣……………	三三
宗務行政の実施した調査とその特徴……………	石井 研士……………	三五
戦後日本宗教ナショナリズムの		
分析枠組に関する試論……………	塚田 穂高……………	三六
天皇と黎帝・将軍と鄭王……………	井上 智勝……………	三七
大学における宗教教育に関する		
認識と期待……………	荻野 勝行……………	三八
近代日本における道德教育……………	森上 優子……………	三〇
河野省三の神道観……………	中道 豪一……………	三三
大正自由主義教育と宗教教育論……………	齋藤 知明……………	三三
ドイツ・バイエルン州における		
宗教科と各宗教団体の関係……………	石川 智子……………	三三
宗教系学校における性教育……………	猪瀬 優理……………	三四
公教育からみるインドのセキュラリズム……………	澤田 彰宏……………	三六
ケベックの「倫理・宗教文化」教育に		
おける「宗教」の位置……………	伊達 聖伸……………	三七
宗教学における分類の問題と教育……………	藤原 聖子……………	三八
宗教教育の二方向……………	津城 寛文……………	三九

第三部会

エルンスト・トレルチと保守革命……………	小柳 敦史……………	四二
トレルチにおける「文化史」の概念……………	塩濱 健児……………	四二
「ユダヤ人イエス」と近代ドイツ……………	久保田 浩……………	四三
ルドルフ・オットーとデ・ヴェッテ……………	藁科 智恵……………	四四
ルドルフ・シュタイナーのキリスト教論……………	野口 孝之……………	四六

ブルーバーにおける「原離隔」について……………	田島 卓……………	四七
M・ブルーバーにおける		
ユダヤ教律法の祭儀規定……………	堀川 敏寛……………	四八
「生の宗教」の出現……………	深澤 英隆……………	四九
ハンナ・アーレントの		
『人間の条件』再考……………	今出 敏彦……………	五〇
ボンヘッファーの良心論……………	岡野 彩子……………	五一
エコ神学試論……………	近藤 剛……………	五三
「相関」という問題について……………	松田健三郎……………	五四
宗教的実在論と象徴……………	芦名 定道……………	五五
北方における復讐観……………	中里 巧……………	五五
ロシア思想の終末論的要素の		
問題について……………	元春 智裕……………	五五
ラインホルド・ニーバーの現実主義……………	澤井 治郎……………	五九
リタ・バセにおける「聖なる怒り」……………	伊原木詩乃……………	六〇
レヴィナスにおける言語と他性……………	重松 健人……………	六一
記憶論が宗教哲学にもたらすもの……………	佐藤 啓介……………	六三
ゲオルグ・カントルの神学……………	落合 仁司……………	六四
初期R・ロランにおける芸術と宗教……………	掛川 富康……………	六五
最近のハーバーマスの宗教論について……………	後藤 正英……………	六六
言語的宗教構成主義の可能性……………	松野 智章……………	六八
基督教に対する理論上の四つの疑問及び		
理由と当該論の若干の適用……………	工藤 亨……………	六九
現代思想の宗教回帰……………	加藤 喜之……………	七〇

目次

第四部会

アリストテレスの友愛論とギリシャ悲劇……長峯素眞生……二七三	死を意味づける語り……土居 由美……二七三	オリゲネスの著述活動と	「テクスト共同体」……出村みや子……二七五	ミトラ教研究……青木 健……二七五	プロクロスにおけるオケーマをめぐる……土井 裕人……二七六	アウグスティヌス『告白』における	新プラトン主義の位置づけ……山田庄太郎……二七六	キリスト教教義の視覚化とその受容……細田あや子……二七九	愛の観想……中村 秀樹……二八〇	マイスター・エックハルトにおける	時間論の構造……田島 照久……二八二	クザヌスの認識論と宇宙論……島田 勝巳……二八三	聖女／魔女考……黒川 正剛……二八四	いわゆる『魔女への鉄槌』における	「魔女」概念について……野村 仁子……二八五	スピノザの自由について……鈴木 忠司……二八七	ウェスレーのサタン理解……野村 誠……二八八	カントの人間観と最高善……南 翔一朗……二八九	フィヒテ宗教論の展開とシェリング……諸岡道比古……二九〇	神性と人間……田口 博子……二九二	キルケゴールにおける正義の問題……須藤 孝也……二九三
--------------------------------	-----------------------	-------------	-----------------------	-------------------	-------------------------------	------------------	--------------------------	------------------------------	------------------	------------------	--------------------	--------------------------	--------------------	------------------	------------------------	-------------------------	------------------------	-------------------------	------------------------------	-------------------	-----------------------------

ニーチェ後期思想における

宗教と「教育」という問題……松田 愛……二九四

前期ヤスパースにおける

信仰と信仰の交わりの問題……藤田 俊輔……二九五

ヤスパースとブルトマン……岡田 聡……二九六

第五部会

タバリーのタフスィールにおける

クルアーン解釈理論……澤井 真……二九八

マイモニデスにおける

イスラーム思弁神学者の神学論議……神田 愛子……二九九

スーフィー文学における

シンボリズムとナータ・ヨーガ……榊 和良……三〇〇

イスラーム的自然法論の意義と問題点……浜本 一典……三〇一

アレヴィー／アレヴィーリキの

認識と政治……佐島 隆……三〇三

グローバル化の中のイスラム……八木久美子……三〇四

仏教徒が語るアッラー……小布施祈恵子……三〇五

一神教による偶像崇拜批判が

意味するもの……若林 明彦……三〇六

その地（創世記一・二a）は

混沌であったか……野口 誠……三〇七

アブラハムの沈黙とテクストの沈黙……岩崎 大悟……三〇九

ユダヤ教の「呪術」観……大澤 耕史……三一〇

申命記における祭司と王……高橋 優子……三一

目次

ユダヤ教聖書解釈における	
「預言者」と「祭司」のパラダイム	勝又 悦子……………三三
芸術とスピリチュアリティ	久保田 力……………三四
「迷宮」図像群とスピリチュアルケア	中島和歌子……………三五
追憶の匂い	吉村 晶子……………三六
物語の宗教性に関する心理学的考察	大澤千恵子……………三八
宗教体験の語りの諸相とその現代的意義	村上 晶……………三九
「体験の学知」としての	
近世西欧神秘主義批判	渡辺 優……………三〇
諸伝統における「宇宙的聖歌・祈り」の	
概念をめぐる考察	リアナ・トルファシュ……………三二
ユングの「世界観」についての一考察	杉岡 正敏……………三三
ルドルフ・シュタイナー神秘主義における	
宗教性	西井 美穂……………三四
井筒俊彦の神秘主義論とその意味構造	澤井 義次……………三五
第六部会	
『雑阿毘曇心論』業品における	
無間業の最大罪と最大果について	智谷 公和……………三六
古代インドにおける支配について	杉岡 信行……………三七
一闡提について	南部千代里……………三八
第一結集における阿難	龍口 明生……………三九
大乘仏教教団の連帯感	阿 理生……………四〇
『阿毘達磨俱舍論』における作用の意義	日比 佑香……………四一
東南アジア撰述仏典の特質	茨田 通俊……………四二

新発見安世高訳『十二門経』における	
写本構造上の問題点	洪 鴻榮……………四三
『論註』『名義撰対』の論理とその背景	田中 無量……………四四
「往生伝類」における	
善導・善道間についての一考察	山崎 真純……………四五
無量寿経の浄土観	緒方 義英……………四六
古蔵の法華経疏における仏身論	藤野 泰二……………四七
雲棲株宏の不殺生思想	西村 玲……………四八
「アヒンサー」の実践をめぐる	
チベット仏教僧と漢民族信徒の関係	別所 裕介……………四九
近代中国東北部仏教の一動向	野世 英水……………五〇
第七部会	
親鸞の回向思想について	中山 彰信……………五一
親鸞の念仏の内的構造	加藤 智見……………五二
親鸞「自然法爾」における	
「はからひ」の意味	藤 能成……………五三
親鸞の六字釈について	貫名 譲……………五四
親鸞における善光寺信仰について	安藤 章仁……………五五
存覚上人の行信理解における一考察	川野 寛……………五六
環中の廻心についての一考察	西原 法興……………五七
七百五十回忌の親鸞像私考	御手洗隆明……………五八
浄土真宗と現代社会	林 智康……………五九
然阿良忠における『十住毘婆娑論』理解	那須 一雄……………六〇
平安期の仏教説話集と〈贈与論〉	稲城 正己……………六一

目次

『西方発心集』の思想と表現……………	龍口 恭子……………三六	白山……………	小林 一葵……………三六
『教時問答』における		祈禱寺院における	
「一心一心識・一切一心識」について……………	土倉 宏……………三六	聖地空間と信者のニーズ……………	阿部 友紀……………三四
「明鏡」の比喩について……………	宮地 清彦……………三六	仏神の現代的展開……………	白川 琢磨……………三五
第八部会			
日蓮の宗教性の原体験……………	笠井 正弘……………三六	陰陽道における「神話」の意義……………	小池 淳一……………三七
再度、日蓮の地涌・上行自覚を論ず……………	間宮 啓壬……………三六	〈殺す神〉としての須佐之男命について……………	小濱 歩……………三八
日蓮における無戒思想の宗教的意味……………	北川 前肇……………三五	北畠親房における祭政一致説の意義……………	齋藤 公太……………三九
日興門流における諫暁活動の展開……………	本間 俊文……………三六	禁裏御師について……………	加崎 千恵……………三九
編年体御書目録『祖書目次』の		近世期における西京神人の変化……………	吉野 亨……………三九
書誌学的研究……………	木村 中一……………三七	山崎闇斎の「神」概念について……………	孫 傳玲……………三九
近代日蓮仏教と生命言説……………	大西 克明……………三六	手島堵庵の思想と宗教体験……………	澤井 努……………三九
日蓮における信徒教化……………	奥野 本勇……………三六	排仏思想における二様のベクトル……………	森 和也……………三九
日蓮『注法華経』寿量品における		伯家神道の展開に関する一考察……………	山口 剛史……………三九
『法華文句』の注記について……………	関戸 堯海……………三七	平田篤胤と道教……………	坂出 祥伸……………三九
山川智応の浄土教批判……………	前川 健一……………三七	前橋神女と平田門人たち……………	三ツ松 誠……………三九
近代仏教と須弥山儀……………	岡田 正彦……………三七	自然災異の神道的表象の	
近代仏教における世界観と社会観……………	常塚 聴……………三七	認知宗教学的アプローチの試み……………	井上 順孝……………四〇
近代真宗の「恩寵主義」に関する一考察……………	春近 敬……………三七	アーネスト・サトウと国学……………	遠藤 潤……………四〇
横川顕正の『禅思想史』観……………	和田 真二……………三七	近代日本における大被詞の解釈……………	鈴木 一彦……………四〇
謡曲における仏僧……………	今泉 隆裕……………三七	明治期の祭祀制度……………	竹内 雅之……………四〇
在家仏教の顕れとしての説経節……………	千葉 俊一……………三七	〈聖なる皇族〉と宮内省……………	茂木謙之介……………四〇
瑠璃壇考……………	小林 順彦……………三八	不安障害と日本の宗教……………	熊田 一雄……………四〇
『弘智法印御伝記』と即身仏の研究……………	ジョン・モリス……………三八	八百万一神教……………	川島 堅二……………四〇
第九部会			

目次

新宗教研究と複数の経路 永岡 崇 四〇九

第十部会

曾我量深の象徴世界観	村山 保史	四〇〇
西田幾多郎における罪・悪の問題	太田 裕信	四〇一
西田とハイデガー	岡 廣二	四〇三
『善の研究』と「宗教的要求」	杉本 耕一	四〇四
後期西谷啓治の身体論	小野 真	四〇五
鈴木大拙の道元理解	蓮沼 直應	四〇六
鈴木大拙と華嚴経	嶋本 浩子	四〇七
靈性知識人としての上原専祿	安藤 泰至	四〇九
西郷隆盛はキリシタンだったか?	坂本 進	四一〇
久米邦武の幸福論	西田みどり	四一二
神との出会いと自然をめぐる諸経験	柴田真希都	四一三
山村暮鳥のキリスト教思想	岩野 祐介	四一三
賀川豊彦の悪概念	ステイグ・リンドバーグ	四一五
逢坂元吉郎の身体論	寺尾 寿芳	四一六
斎藤茂吉の病者への眼差し	小泉 博明	四一七

第十一部会

ヒンドゥー教の葬儀と祖先祭祀	虫賀 幹華	四一六
韓国葬墓文化と近代	田中 悟	四一九
韓国降神巫の地域的様相	川上 新二	四二三
送葬における遺品と貨幣	金子 奈央	四二三
遺影奉納と死者の追悼	山田 慎也	四二三

奄美・南薩地域と戦争死者慰霊 西村 明 四二四

死者の棲むランドスケープ 土居 浩 四二五

墓と人のエージェンシー 越智 郁乃 四二七

情報化による墓参りの変容 坪内 俊行 四二八

自然物および人工物の擬人化にみられる
信仰心 永原 順子 四三九

沖縄の抱護と集落の位置関係 鈴木 一馨 四四〇

過疎地域の祭祀現状 冬月 律 四四二

洪水と稲作儀礼 下本英津子 四四三

流行神をめぐる一考察 黄 緑萍 四四四

祝（ハフリ）と動物供犠 鈴木 良幸 四四五

「霊媒」再考 佐藤 憲昭 四四七

江戸期の伊勢・山田における寺院の変遷 河野 訓 四四八

東京都二十三区域西北部の
「路傍の地蔵」 清水 邦彦 四四九

神概念をめぐる言説空間 近藤 光博 四五〇

第十二部会

サンタ・ムエルテ信仰をめぐる 正統性とその変化	井上 大介	四五三
分裂と信仰実践	丹羽 充	四五三
エジプト一月二五日革命と コプト・キリスト教	岩崎 真紀	四五五
大阪万博キリスト教館にみる キリスト教の戦後	川口 葉子	四五五

目次

宗教からみる日韓の文化交流	李	賢京	四七〇	浄土真宗本願寺派における				
日本産ブラジル系プロテスタント教会信者				ビハラ活動の意義		伊東	秀章	四七六
のブラジルへの再適応	山田	政信	四七六	自殺に対する宗教者の活動について		小川	有閑	四七八
ハーレムの黒人教会を考える	芦名	裕子	四七九	代替療法「ホメオパシー」をめぐる				
マハトマ・ガンディーにおける				言説の分析		平野	直子	四七九
宗教的多元主義と世俗主義	外川	昌彦	四八〇	宗教者としてのエンゲルハート		池澤	優	四八〇
天宙清平祈禱苑の「恨言説」	古田	富建	四八二	仏教の生命観と代理母		金	永晃	四八一
ヤチエン修行地におけるカリスマの動向	川田	進	四八三	宗教的な行為としての				
東シナ海周辺地域の媽祖信仰と				ホスピタリティについての一考察		吉田	恵	四八三
日本の聖母信仰	本間	浩	四八四	先端医療技術における弱者へのケア		沖永	隆子	四八四
一九九〇年代台湾の社会変化と				フランシス・ベイコンにみる				
アミ族宗教のシャーマニズム的対応	原	英子	四八五	自然探求の宗教性		下野	葉月	四八五
バリ島の宗教儀礼における				ウィリアム・ジェイムズにおける				
トランスと変容力について	磯	忠幸	四八六	科学と宗教		林	研	四八六
戦後のサラワクにおける				「信」をめぐる		谷内	悠	四八八
人類学とアダット	土佐美菜実		四八八	近年の宗教心理学における				
タイ上座仏教と行政事業	矢野	秀武	四八九	死と宗教		イーリヤ・ムスリン		四八九
翻訳と布教	永松	和郎	四九〇	心と脳の概念性と実在		沖永	宜司	四九〇
植民地布教の実態と虚像	工藤	英勝	四九二	創造論批判の科学的検証		十津	守宏	四九二
第十三部会				脳神経科学と宗教		方	俊植	四九三
痛みの宗教的意味	村上	喜良	四九三	J・ヒックの自由意志論		保呂	篤彦	四九四
「障害」のキリスト教的意味	寺戸	淳子	四九四	日本における「宗教を精神医学からみる				
真宗文化圏域での障害者運動の可能性	頼尊	恒信	四九五	研究」の視点の諸相		大宮司	信	四九五
				プラグマティズムとしての専修念仏		菱木	政晴	四九六

目 次

妙好人浅原才市における「入信」に至る	
心的過程に関する一考察	中尾 将大……………四九七
ルドルフ・オットーと禪	木村 俊彦……………四九九
第十四部会	
京鹿子娘道成寺における	
聖なる女性についての一考察	東本早紀子……………五〇〇
宗教における「女」の伝統	堀内みどり……………五〇一
仏教と女性をめぐる現代的課題	丹羽 宣子……………五〇三
世界遺産のオーセンティシティ概念と	
神仏習合	中西 裕二……………五〇四
二大霊場巡拝者の実態	柴谷 宗叔……………五〇五
四国遍路のグローバル化に関する一考察	浅川 泰宏……………五〇六
巡礼者の定義をめぐる差異の所在	土井 清美……………五〇七
現代の聖地にみる「癒し」と「蘇り」	天田 顕徳……………五〇九
観光地としての聖地	松岡 秀明……………五一〇
聖なる観光地	岡本 亮輔……………五一一
新しい巡礼の創出	山中 弘……………五一二
国際ツーリズムと華人祭祀	山下 博司……………五一四
九曜信仰と聖地巡礼	飯塚 真弓……………五一五